

- 多様な主体との連携・協働による地域の課題解決や価値向上に向けた「共創」の取組の一環として、教育機関との協働により、地域のこども達に運動に親しんでもらうことを目的とした運動プログラム「N(エヌ)チャレンジ」を、道の駅では初の試みとして「ハウスヤルビ奈井江(9月)」及び「三笠(11月)」でそれぞれ実施しました。

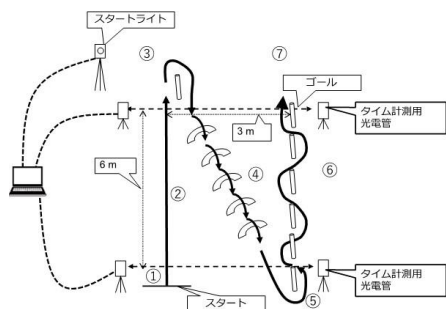
「Nチャレンジ」は、あらゆるスポーツに共通して必要な「すばやい身のこなし」の能力を測定する運動テストで、こどもが楽しんで取り組めるアジリティ（敏捷性）テストとして北海道教育大学岩見沢校の教員が開発されたプログラムです。

今回のイベントは、集客力と地域コミュニティ機能を持つ「道の駅」で実施することで、「Nチャレンジ」の普及促進、道の駅を拠点として地域のこども達や住民との交流促進を図ることを目的として実施しました。



教育機関

Nチャレンジプログラム (道教育大岩見沢校が開発)



子どもの直線のスピードや方向変換を中心としたアジリティ能力を楽しく測定する運動プログラム

約6～10m四方のスペースがあれば実施可能

提供：北海道教育大学岩見沢校

道の駅



「道の駅」でのプログラム実施の様子



札幌開発建設部

- ・実施箇所の候補選定
- ・道の駅管理者との調整
- ・効果検証のためのアソケートなど



あわせて実施した体力測定(左)と 3×3バスケットボール体験(右)

- 当日は、道の駅に立ち寄った家族連れや地域のこども達が多数参加しました。
➤ 参加者からは、「学校でも実施してほしい」、「ボール投げ、走り方教室なども実施してほしい」といった声が寄せられました。